

学会記事 Newsletter

学会賞選考委員会

本年の選考委員会は昭和56年2月18日開催された。慎重審議の結果、City of Hope National Medical Center 遺伝生化学部長 吉田昭氏に、第19回日本人類遺伝学会賞が贈られることに決定した。

日本学術会議第80回総会報告

日本学術会議第80回総会は、10月22日9時40分から同講堂において開催された。今総会には、20件を超える提案事項があり、できるだけ審議に時間をあてるため、諸報告は文書だけによることとし、口頭報告は、とくに追認・承認を必要とする事項に限って行われた。続いて第6部、食糧需給問題特別委員会、栄養・食糧科学研究連絡会から提案された「食糧自給力の向上について」の報告案が審議された。しかし多数の会員から、このままでは賛成できないという発言があり、提案者により大幅に修正されたが、なお多くの会員からの反対があったため、さらに修正を行い、翌日審議することとされた。続いて発展途上国学術協力問題特別委員会提案の「発展途上国からの留学生を対象とする情報センターの設置について」(報告)が採択された。午後は、最初に国公立研究機関問題特別委員会から、第9期以来の本会議における検討をとりまとめて提案された「国・公立試験研究機関の運営の改善について」(報告)が採択された。続いて、第7部・癌研究連絡委員会老化分科会提案の「国立老化・老年病センター(仮称)の設立について」(報告)、および第7部と学術情報生産・流通問題特別委員会提案の「医学情報センター(仮称)の設立について」(報告)が採択され、16時45分、1日目の議事を終了した。

2日目の23日は10時開会、第5部提案の「日本工学技術機構(仮称)の設立について」の報告案について審議が行われた。この提案は、総会前日の21日、とくに連合部会が開かれもって説明がなされていたものである。しかし、多くの疑問や懸念が述べられたので提案者により修正され、24日に改めて審議することとされた。次に、第7部提案の「医学教育会議(仮称)の設置について」の報告案について審議が行われたが、この会議の法律上の性格が問題にされ、この点を修正のうえさらに翌日審議することとされた。続いて、第4部、地質学研究連絡委員会、地球化学・宇宙化学研究連絡会、南極研究連絡委員会提案の「隕石科学及び隕石による宇宙科学研究の振興について」(報告)、学術体制委員会提案の「研究者養成の振興策について」(要望)、科学史・科学基礎論研究連絡委員会提案の「生産に関連する科学・技術資料の保存・管理・利用について」(要望)、研究費委員会提案の「大学における経常的研究費の増額について」(要望)、国際学術交流委員会提案の「日本学術会議の国際学術交流に必要な予算の増額について」(要望)がそれぞれ審議の上採択された。続いて、前日に提案された「食糧自給力の向上について」報告の修正案が審議されたが、なお反対意見が多く、投票による採決の結果賛成少数で可決されるに至らなかった。続いて海洋学研究連絡委員会、水産学研究連絡会提案の「海洋科学調査について」の要望案はなお検討の必要ありとして、提案者により取り下げられた。2日目は18時に終了した。

3日目の24日は、最初に会長から前日の「食糧自給力の向上について」の提案は、総会で可決されなかったが、本会議はこの問題の重要性を否定するものでないので食糧需給問題特別委員会の名でこ

れまでにまとめた見解や資料を外部に発表することを了承されたい旨が述べられ、承認された。続いて第7部、実験動物研究連絡委員会提案の「動物実験ガイドラインの策定について」(勧告)が採択された。前日の「日本工学技術機構(仮称)の設立について」の勧告案は、提案者により「工学技術振興の方途を早急に講ずることについて」の要望案にかえることを提案され、活発な討論の後、投票により可決された。次に前日提案の「医学教育会議(仮称)の設置について」(勧告)の修正案が採択された。この後、科学者の地位委員会提案の「外国人の国公立大学専任教員任用について」(見解)、第7部、第3部、第5部提案の「労働衛生の効果的推進について」(要望)、国際協力事業特別委員会、環境・健康問題特別委員会、自然保護研究連絡委員会提案の「環境科学研究の推進について」(申入れ)、環境・健康問題特別委員会提案の「騒音問題の重要性を訴える」(声明)、原子力平和問題特別委員会提案の「放射性物質を使用する際の心構えについて科学者・技術者に訴える」(声明)、会長提案の「国際紛争の平和的解決の必要性について」(声明)が採択され、16時30分全議事を終了した。

本総会は、提案件数が多かったが、多くの会員から活発な意見が述べられ、第11期最後の総会にふさわしいものになった。

なお、本総会の出席率は、1日目85.6%、2日目86.1%、3日目82.3%であった。

(日本学術会議広報委員会)

放射性物質を使用する際の心構えについて

科学者・技術者に訴える(声明)

昭和55年10月24日

第80回総会

最近、大学その他の研究機関において相次いで放射性アイソトープ取扱に関連する事故が発生し、一般社会に大きな不安を与え科学者に対する不信の念をまねいていることは憂慮に堪えず、この事実を科学者・技術者は自らの責任として厳粛に受けとめなければならない。

原子核科学の発展にともない、多数の放射性核種がつくられ、物理的諸科学・生物学・医学をはじめあらゆる学問分野での研究に有効に利用されているばかりでなく、工業・農業・医療等の分野において広汎に 응용されて大きく人間の福祉に役立っている。

しかし、放射性物質は、微量であってもそれなりの有害性を持ち、しかもその放射性は、固有の半減期によって減衰する以外、人為的に減衰させることは事実上不可能であり、新しく作られた人工放射性物質の環境における挙動について未知の部分が多い現状に鑑み、その取扱いについて特別の注意が必要である。

したがって放射性物質を取り扱う研究者は、常に放射性物質のもつ危険性を忘れず、謙虚にその取扱いの実技を身につけ、また、それぞれの場に応じ、法令に準拠した操作マニュアルを作り、固くそれを守らなければならない。

科学者は自らの研究目的追究に熱心なあまり、時にその周辺への結果の波及を忘れること無しとしない。このような態度についての自戒は、放射性物質の取扱いについてはとくに留意されなければならない。

最近の一連の事故の経験は誠に不幸なことであるが、これらの事故に限らず、およそ事故の記録が蒐集され、再びそのような事故を起こさぬための資料とすべきである。

日本学術会議は、この経験をふまえ、再び過誤を繰り返さないよう、さらに具体的に検討を進めたいと考えているが、さしあたり、ここに第80回総会の決議を経て、放射性物質の使用に際しての心構

えについて、各関係方面に訴えるものである。なお、その協力の上に法令の再検討をも含む安全な取扱いについての正しい路線を打ち立てることが必要である。そのような努力の積重ねこそが、社会の信頼回復の唯一の道であると考ええる。

The 6th International Congress of Human Genetics
(第6回国際人類遺伝学会議)

第6回国際人類遺伝学会議は下記の要領でイスラエルのエルサレム市で開催されますが、学会あてに2nd Announcement が送られてきましたので、その概要をお知らせします。

- 開催地：エルサレム市（イスラエル）
- 期 間：9月13日（日）～9月18日（金），1981年
- おもなプログラム

LECTURE

- A. Presidential address. The wonder of our presence here
- B. 未定
- C. The emerging concept of mammalian genes
- D. The human gene map
- E. Cytogenetic aspects of primate evolution
- F. The antiquity of man: Human evolution

SYMPOSIA

- S 1. Biological aspects of common diseases
- S 2. Population genetics
- S 3. Twins
- S 4. Genetic counseling
- S 5. Treatment of genetic disease
- S 6. Clinical cytogenetics
- S 7. HLA and disease
- S 8. Environmental aspects of mutagenesis
- S 9. Antenatal diagnosis
- S10. Molecular mechanisms of genetic disease
- S11. Teaching of human genetics
- S12. Cancer genetics
- S13. Quantitative genetics
- S14. Screening for genetic diseases
- S15. Delivery of genetic services
- S16. Biological basis of behavior
- S17. Developmental genetics
- S18. DNA polymorphisms detected by restriction enzymes

WORKSHOPS

- W 1. Protein polymorphisms
- W 2. Population cytogenetics
- W 3. Chromosome structure
- W 4. Mapping by somatic cell hybridization
- W 5. Inborn errors of metabolism
- W 6. Pharmacogenetics
- W 7. Thalassemias
- W 8. Diabetes
- W 9. Dermatoglyphics
- W10. Mapping by classic methods
- W11. Isolate populations
- W12. Cystic fibrosis
- W13. Aging and genetics
- W14. DNA polymorphisms
- W15. Behavioral genetics
- W16. Amino acid metabolites and genetics
- W17. Red cell membrane defects
- W18. Statistical applications of human genetics
- W19. Collaborative studies in prenatal diagnosis for chromosomal disorders

PLENARY SESSION

- (i) The new genetics: recombinant DNA, DNA sequences and regulation
- (ii) Clinical genetics

なお、ポスターセッションへの出題は可能です。

演題と登録の締切は、1981年5月1日（必着）となっています。

連絡先：The Secretariat, 6th International Congress of Human Genetics, P.O.B. 29784,
Tel Aviv 68125, Israel.

詳細は庶務幹事までご連絡下さい。

庶務幹事 黒木良和